

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	児童が主体的に学習に取り組めるように、児童が見通しをもち学習に取り組めるようにしたり、ICT機器を活用したりできるように授業展開を工夫していく。	中間評価	単元や1時間の学習のめあてをもつことで、学習の見通しがもて、主体的に取り組む姿が見られてきている。タブレット端末も効果的に活用できるようになってきている。	最終評価	めあてを意識して取り組む児童が増えたことで、自分の学習状況を把握し、振り返りに書き表す姿が見られるようになった。ICT機器を効果的に活用することができ、児童の主体的な活動へとつなげることができた。
		教室前面の掲示物に配慮し、板書が見やすいように工夫していく。学習内容によって、学習形態を工夫し、互いに学び合う場を作るようにしていく。		学年、教科や学習内容に応じて、学び合いの場の工夫を行っており、児童の思考を広げたり深めたりするのに効果的である。		掲示物に配慮し、落ち着いて学習する環境を整えることができた。友達との意見交流の機会を取り入れたことが、児童の思考を広げることにつながっていた。
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 正しい表記で、文を書くことが難しい。 片仮名や漢字を正しく書くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 助詞の「は、を、へ」や「小さくかく字」、「」。「。」などを正しく書く力が必要である。 お手本をよく見て、正しい字形を覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を見直す習慣を付ける。 漢字や片仮名の練習帳を活用し、丁寧に文字を書く習慣を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 助詞や、小さく書く文字のミスは減ってきているが、個人差が見られる。個別に指導をしていく。 タブレットや鉛筆で書く練習を繰り返し行うことで、漢字や片仮名の正しい書き方が、身についてきた。はね・はらいや線の長さなど、細かい部分のミスが見られるので、引き続き練習を続けていく。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章題で正しい立式をすることが難しい。 計算力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> わかっている数、聞かれていることに着目して、正しく立式する力を付ける必要がある。 繰り上がりの計算方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末や計算プリントで繰り返し練習をし、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 足し算、引き算かわからないなどの、立式の誤りが見られる。何を聞かれているのかをしっかりと押さえ、図で確かめて考えるように支援をする。 計算力は、高まっている。時計の読み方でつまづいている児童が2割ほどいる。引き続き練習を続けていく。 	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを文字で正しく表現することが難しい。 漢字、ひらがななど、字形を意識して書くことが難しく、定着しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、ひらがな、カタカナの表記について、字形を意識して正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 「、」や「。」を正しく使って、伝えたいことを言葉で表現する力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体のドリルやデジタルドリルを活用し、字形を意識して正しい書き順で書けるように定着を図る。 常時活動として、毎週日記を1回以上書く取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルを活用し、字形を意識し書き順も正しく書ける児童も見られるが、実際の書字に成果が表れにくい児童もいる。引き続きデジタルドリル、漢字ミニプリントなどを活用し、定着を図る。 日記や感想文などを書くことを通して、句読点を指導していくとともに、国語の学習で学んだ言葉を活用して伝えたいことを書くように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルや漢字ミニプリントの活用により、既習漢字の定着に取り組んできたことで、漢字を書くことができるようになってきた。はね、とめ、はらいや字形を意識して書いたり、送り仮名や読み方など正しく書いたり、細かい部分の指導が引き続き必要である。 継続した日記や感想文などの取り組みで自分の思いを以前よりも長い文で表現できるようになってきた。主語と述語より意識させることで、より明確に表現できる児童も増えた。句読点は、自分の書いた文章を読み返しさせ気付くように指導している。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算はできるが、自ら考え答えを導き出す力が、十分身に付いているとは言い難い。 計算の速さや正確さに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現する力を伸ばしていく。 10の合成分解の理解を確実に身に付け、繰り上がり繰り下がりなど基礎的な計算力が身に付くように繰り返し指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間自力解決の時間を設定する。多様な考え方を共有しながら、具体物や絵、図、言葉などを用いて、自分の考えを表現する力の定着を図る。 東京ベーシック・ドリルやデジタルドリルなどを授業や家庭学習でも活用し、繰り返し取り組みながら定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ自分の考えをもち、ノートに表現したり説明したりできる児童が増えてきた。今後も、引き続き自分の考えを表現できるようにしていく。 デジタルドリルを家庭学習中心に活用し、計算力が身に付いてきている。個に応じた学習内容や正答率の低い学習内容については繰り返し取り組み、定着できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対して、自力解決の時間に自分の考えをもち、書き表したり発表したりする姿が増えてきた。文章問題では、問題文の意味を理解できず、正しい立式へとつなげることができていない様子がまだ見られるので、様々な問題に触れる中で、問われていることを理解できるように支援している。 東京ベーシック・ドリルやデジタルドリル等を繰り返し活用してきたことで、基礎的な計算力が定着していった。児童によって活用に差があり、計算力にも開きが見られるので、時間を確保するなど取り組み方を工夫していく必要がある。
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の「文章を書く」は、全国の平均よりも13.1ポイント低かった。 想像したり伝えたい思いは進んでもつことができが、適切な言葉で表現することが難しい。 正確に読み取ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字を学習や生活の中で使えていないことが多いため、定着させていく必要がある。 自分の考えの大事な部分を相手に伝える力を伸ばしていく。 文章の大体は理解しているが、正確に読む力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルの活用や漢字の小テストを定期的に行い、単元ごとに定着を確認する。 授業の振り返りを書くことを習慣付け、文を書く活動に日常的に取り組む。 宿題等で音読に毎日取り組む。また、授業中には正確に読むことを意識し、叙述を押さえながら読むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にデジタルドリルを活用して新出漢字を確認し、関連する問題を家庭学習で出して定着を図った。週一回漢字の小テストを実施し、漢字の定着度を確認している。 それぞれの単元のまとめとして、文でまとめる活動を取り入れている。 正確に読み取れるように、細かい表現に注意して音読ができるように指導を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字を使用しようとしているが、文の意味に合わないものを書いてしまうことがある。 自分の考えを伝えるために、文にまとめたり、順番に気を付けて話したりすることができるようになってきている。 正確に文章を読むことは意識することができてきている。

		<p>調新宿区学力定着度調査のどの項目も平均より高い。その中でも、「長さ・かさ」の項目が低く、苦手な領域であることが分かる。</p> <p>学文章問題の読み取りが難しい。(答えの単位間違いなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九の定着にばらつきがあるため、基礎基本の定着を図る必要がある。 かさや長さの正確な量感にばらつきがあるため、日頃の生活と結び付けて考える力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリル、家庭学習等で、かけ算九九の復習を続けていく。 算数的活動を充実させ、正確な長さやかさに触れる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> かけ算の筆算の学習に繰り返し取り組んだことで、九九が定着してきた。 九九が苦手な子への個別指導を続けていく。 長さの学習では巻き尺を使って実際に計測するなど、算数的な活動に取り組んだ。今後もこのような取り組みを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九が苦手な児童への個別指導を続け、定着した児童が増えてきている。 小数の学習で具体物を用いたり、重さの学習で天秤や秤を用いたり、算数的な活動を充実させたことで、量感が身に付いた。 文章に線を引きながら問題を解いたことで、正確に内容を読み取れるようになってきた。
4	国語	<p>調正答率は令和2年度の新宿区学力定着度調査の区の平均スコアを上回っている。個々の領域別では、「文章を書く」が区の平均より3ポイント、全国の平均より15ポイント下がっている。特に「定められた条件下で考えをまとめる」設問の正答率は、目標値を大きく下回っていた。</p> <p>学学習には意欲的に取り組んでいる。「文章を書く」も、自分の好きな文章や条件が少ないものに関しては意欲的である。漢字やローマ字の習熟には個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 限られた文字数や段落数、テーマなど与えられた条件に基づき考えをまとめて書くことができるよう指導する必要がある。 漢字やローマ字について、正確に書きとる力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業後の振り返りでは視点や条件を与えることで、考えをまとめて記述する取り組みを行う。授業後の振り返りは毎時間行うことを目指す。 週に1回程度、朝学習の時間を使って漢字小テストやローマ字の小テストを行う。また、デジタルドリルを活用することで家庭学習での漢字学習時間を確保し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業後の振り返りは可能な限り行っている。しかし、「〇〇が分かった」「◎◎ができた」などの単純な記述が多いため、今後は「自分の取り組み方を分析する」「今後の見通しを自分でたてる」などの視点を与え、内容の充実を図る。 漢字小テストやデジタルドリルの活用は継続できている。漢字の定着も上向いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業後の振り返りは視点を与えることで、内容が充実した文章を書けるようになった。また、書くこと自体に抵抗感が減り、主体的に書く活動に取り組む児童が増えた。しかし個人差が大きく、書くことが苦手な児童や主体的に取り組めない児童への手立てを充実させる必要があった。 漢字の定着は上向いている傾向があったが、文章内で使うなど活用するという点で課題が残った。
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査ではどの項目も区の平均点を上回っていた。正答率として最も低いのは「数と計算」であり、「図形」「測定」領域はどちらも区の平均を10ポイント以上、上回った。しかし、解答形式が「記述」になると正答できていない児童も多く、観点における「思考・判断・表現」の正答率も低い傾向が見られる。</p> <p>学学習には意欲的に取り組んでいる。提出される課題の状況を見ると、筆算(たし算・ひき算・かけ算)などにおいて、繰り上がりや繰り下がりなどの単純な間違いが多い傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり繰り下がりやかかけ算九九などの基礎基本の定着を図る必要がある。 自分の考えを文章化したり、口頭で説明したりする力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回程度、朝学習の時間を使って四則演算の復習小テストを行う。またデジタルドリルを活用することで定着を図る。 授業内で自分の考えを図や式、言葉を使って表現する時間をとる。また類似点や相違点を考えながら、他者の考えを説明するなど、考えを説明する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルは毎日の宿題として活用している。繰り返し行えるため、定着に向けての効果が期待できる。 考えを説明する力は少しずつ伸びている。今後も取り組みを続けていく。 新しい単元の導入時には、それまでの既習事項の復習を行っている。また毎時間の授業の最初に前時の学習の振り返りを行うことで、主体的に学習に取り組めるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルの活用を続けた結果、基礎・基本の定着が見られた。個人差が見られるため、来年度も引き続き、基礎・基本の定着を図っていく必要がある。 自分の考えを説明するために、図や式を利用しながら表現しようとする児童が増えた。個人差が見られるため、ヒントカードを作るなど手立てを充実させる必要があった。
5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査のほぼ全ての領域で平均を上回ったが、「作文問題」においては、区の平均を下回る結果となった。何を聞かれているのかを理解して、自分の考えを詳しく書く問題での正答が伸び悩んだ。</p> <p>学自分の考えを文章に表現する力が十分に身につけていない状況である。また、漢字の書き取りについては個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題文で問われていることに正対していない内容の回答をする児童も見られるため、自分の考えを文章に表現する力を伸ばしていく。 既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間や授業の時間を活用して短作文を書く取り組みを行う。分量は100字から200字程度とし、決められたテーマで書けるようにする。 小單元ごとに漢字ミニテストを行い、定着を図る。また、家庭学習での漢字練習を継続して行っていく。他教科においても既習の漢字を使うよう、ノート指導等で継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 短作文を書く取り組みを継続して行ってきた。今後は意見文の学習で学んだ文章構成も活用し、継続して行う。 漢字ミニテストを行うことで、力を付けてきた。また、2学期からは、デジタルドリルを用いて漢字練習を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成を示して繰り返し短作文を書かせたことで、意欲の向上と書くことに対する自信につながった。 2学期よりデジタルドリルを積極的に活用し漢字の定着を図ったが、漢字の読み書きに苦手意識をもつ児童が増えてきた。漢字ノート等を用いた筆記練習も必要だと感じた。
	算数	<p>調全領域において新宿区学力定着度調査の区の平均を上回っているが、個々を見ると既習学習が定着している児童とそうでない児童の差が大きい。特に計算の仕方や自分の考えを書くような記述式の問題(活用の問題)を苦手としている児童が多かった。</p> <p>学基本的な計算の力は概ね身に付いている。授業中、自分の考えを表現してそれを説明したり、他のやり方を模索したりする力を伸ばしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 式からその意味を読み取ったり、正しく立式したりする力を伸ばしていく。 単純な計算問題はできるが、出題形式が変わったり複雑になったりすると正答までたどり着くことが難しいため、順序立てて解答していく指導を継続していく必要がある。 学習したことを活用する力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルを基本に、学習している単元の前学年での定着を確認し、必要に応じて復習をする。 一問一答の授業ではなく、自分の考えや友達の考えを説明する機会を設けたり、図や表を用いて考えさせたりし、自ら活用できる力を付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習している単元で、東京ベーシック・ドリルを中心に復習プリントを活用し、学力の定着を図ってきた。 習熟度別では、クラスの状態に応じて、自分の考えを説明する機会を設けたり、図や表を用いて考えさせたりした。自分の考えをノートに書く力が付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルの他に、家庭学習ではデジタルドリルも活用し、学力の定着を図り、基礎学力は一定の定着が見られた。 授業では、立式だけでなく、図や表、数直線を用いて自分の考えをノートに書けるようにすることで、式を読み取り立式する力がついた。単位当たり量の大きさや、割合の習得に個人差が見られるので、継続して自分の考えをノートに書かせていく。
6	国語	<p>調領域「読むこと」の正答率は、新宿区学力定着度調査の区の平均を3ポイント近く上回っていた。特に「説明文の内容を読み取る」設問では大きく力を付けていることがわかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 領域「書くこと」に於いては、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を下回り、特に「報告する文章を書く」内容では、自分の考えの理由をまとめて書く力を伸ばしていく。 「漢字の読み書き」は、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を上回っているが、敬語や文章の中で文脈にそった漢字を適切に使う力がまだ十分に身につけていないので、指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して自分の意見をもち、自分なりの考えを根拠を提示しながら、書いていく時間を十分に設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書くことへの抵抗感はなくなってきている。考えの根拠を提示しながら書くことには、まだ個人差が見られるので、自分の考えを書く場面を増やししながら、個別に指導していく。 デジタルドリルを活用したり、漢字の小テストの回数を重ねたりして、漢字の読み書きの定着を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」に重点を置き、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にしていくことを指導してきた。個人差はあるが、根拠を提示しながら、自分の考えが伝わるよう工夫して書けるようになってきた。
		<p>学与えられた課題については、前向きに取り組むことができる。その一方で、見通しをもって、自らの学習を調整したり、最後まで粘り強く学習したりする姿勢や経験に個人差があることが見て取れる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルの活用を通して、漢字やことばの定着が見られる。特に正確な筆順に対しては、どの子も意識が向上している。今後も、繰り返し学習し、考える基となる語彙力を身に付けたい。

	算数	<p>調全領域で、新宿区学力定着度調査の区の平均正答率を上回っている。特に、図形の領域に於いては、およそ9ポイント区の平均を上回り、個人差はあるものの、学習の定着が見られる。</p> <p>学授業で自分の考えをもち、表現する力はある。他のやり方を模索したり、友達の考えからよりよい考え方に気付き、自分の考えを深めたりする力をより伸ばしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「整数の仲間わけ」の問題でミスが多い、初歩的な問題でのミスが目立つ。問題をきちんと読み、客観的な目で見直す力を伸ばしていく。 文章題を解く時の、立式で誤答しているケースが見られる、式を読み、式と問題の場面が一致しているか確認する指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃のワークテストやプリント、デジタルドリルなどでの取り組みで、問題の内容を正確に読み取り、解答後の見直しを励行する。 図などを活用しながら、立式の根拠を説明する機会を設け、正しく立式できる力を付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントやデジタルドリルを利用し、既習事項の定着を図っている。ワークテスト時などに、自己の解答を見直すよう声をかけ、客観的な目で見直す力を育てている。 学習課題に対する自分の考えをノートに毎時間書き、話し合い活動で考えを共有したり、説明したりする機会を設けている。図などを根拠に正しく立式することが少しずつできてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテスト返却時に、誤答の原因や計算の過程を見直したことで、図形の体積や四則計算の設問に、定着が見られる。 年間を通して、ノートに自分の考えを書いたり、友達の考えと自分の考えを比較したりする活動を継続することができた。比を使って考えを説明する問題は、習得した知識を活用して問題を解き、解決の過程を説明することで、より力を伸ばしていきたい。
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> 学習に進んで取り組もうとする児童が多く、特に、楽器を演奏することが好きな児童が多い。 楽器の技能や階名唱などの知識の定着に個人差が見られ、苦手意識をもっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能や知識の定着に個人差が見られ、自信をもてない児童や苦手意識をもっている児童が見られる。楽器の技能や基本的な知識が定着するように指導していく必要がある。 与えられた楽譜や課題をただ演奏したり取り組んだりするだけになってしまうことが多い。音楽を特徴付けている要素を手掛かりに、「こうしたい」と思いをもって表現を工夫する力を伸ばしていく。また、「もっとこうしよう」と、試行錯誤しながらより豊かな表現を目指していく力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、できた達成感や喜びを感じられるようにする。 音楽を特徴づけている要素と曲想との関わりについて感じ取ることができるように、鑑賞の学習の中で、意見を交流して音楽の言葉を耕したり、視点を明確にして聴かせたりする。また、友達の演奏や考えに触れる時間を設け、互いによいところを見付けたり、よりよい表現にするために試行錯誤したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、できた達成感や喜びを感じられるようにしていく。 2人組での聴き合いやグループでの活動を通して、友達の演奏のよいところを見つけたり、自分の表現をよりよくしようとしたりする姿が見られた。また、タブレット端末を使って自分の作品や演奏を聴いて確かめる学習も行った。今後もかかわり合いの活動や、タブレット端末を有効に活用して自分の音を聴いて確かめる時間などを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人ができた達成感や喜びを感じられるように、今後も、個々への丁寧な指導や、ねらいを明確にした指導が必要である。スモールステップのめあてを提示することで、技能の定着を目指す。 グループ活動や全体での共有で、友達の演奏や思いに触れることで、自分の表現に生かそうとする姿が見られた。また、タブレット端末を使って自分の演奏や作品を聴いて確かめることで、表現をよりよくしていこうとする姿勢や技能の向上につながった。 鑑賞の学習では、視点を明確にして聴かせるようにした。音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりについて、その都度言葉掛けして気付かせるようにしたことで、全員で共通の視点をもって楽曲を聴くことができた。表現の学習と関連させて考える力も伸ばしていく。
	図工	<ul style="list-style-type: none"> 作品をつくったり描いたりする活動が好きで楽しく取り組んでいる児童が多い。 手を挙げて生き生きと発表を掲げる児童も多い中、自分の活動や発言に自信を持たず周りの様子を見てから活動する児童も一定数いる。 活動内容に対し、完成のイメージをもてずに早く終わらせようとしてしまう児童がいる一方で時間がかかりすぎてしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言する児童に任せて自分で考えずに受け身になっている児童もいる。 活動の振り返りの内容が乏しかったり、ねらいに即して書いていなかったりする児童がいる。 授業の全体計画と個別の計画、ねらいを意識できずに、活動している児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手する児童の発言だけでなく、ワークシートなどから見取った他の児童の考えを、板書を活用するなどして全体に広げるようにする。 活動を行う中でよくできている点を個別にほめ、具体的に振り返りに書くよう声をかける。 毎回の授業の最初に今計画の中のどこを行っているか、ねらいは何かを明示する。また授業の終わりには次回の授業について予告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチを活用し、イメージが広がっている児童のアイデアを他クラスで紹介するなどして共有した。 描くことに困難がある児童には個別に声をかけ考えを引き出せるようにした。授業の中でフォローできない時は、休み時間などを使って補習をした。 授業の計画を具体的に伝えることで、持ち物をきちんと準備し、次回の活動をイメージして活動する児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチの共有や板書の工夫は発想を広げる段階の有効な手立てとなった。一方でよいアイデアをもっている児童にも自信をもてずに表現することをためらう児童には違ったアプローチが必要である。 題材の活動計画、手順、もちものなどの準備については板書や言葉で分かりやすく伝えることで理解度や取り組み方に違いが出た。最初に題材についての具体的なイメージをしっかりとたせることを今後も継続していく。
	特支	<ul style="list-style-type: none"> 人と良好な関係を築いたり、適切なコミュニケーションをとったりすることが難しい。 体の使い方がぎこちなかったり、姿勢を保ったりすることが困難な児童がいる。 指示を聞き取ったり、覚えていたりするのが難しい様子が見られる。 読んだり書いたりすることに課題を抱えている児童が多い。 自己肯定感が低く、称賛を受けることになれていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを想像することが難しかったり、自分の気持ちや考えを適切に表現できなかつたりして、上手く人間関係を築くことが苦手な児童が見られる。 自分の体を調整することができないため。教具を上手く扱えなかつたり、学習に集中して取り組めなかつたりする。 記憶するときに、工夫する必要がある 読んだり書いたりすることは、全教科・領域に関わるため学習に困難を感じる要因となっている。 初めてのことや自信のない学習活動に適切に取り組めないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルスキルの課題を行ったり、少人数での活動を行ったりしてコミュニケーション能力を高め、学級に汎化させる。 感覚統合の運動を行う。 個の特性に応じた認知トレーニングを行ったり、教材を使用した学習を行ったりする。 できたこと等を具体的に褒め、自信をもたせる。 個のつまずきに基づき、課題をスモールステップで行い、できた経験を積み、読む書く活動への抵抗感を軽減させていく。 スモールステップで課題に取り組みできた経験を積みませたり、自信をもてるようにできたこと等を具体的に褒めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小集団指導ではトーンチャイム、和太鼓、長なわ等を活用し、友達や教師と一緒にタイミングを合わせて動くことの楽しさを味わわせることができた。小集団指導では、児童と教師によるペアで取り組む課題、児童2名がペアとなって取り組む課題、3名以上の児童が教師のサポートを受けながら取り組む課題、3名以上の児童が教師によるサポートをほとんど受けずに取り組む課題と、難易度を段階的に引き上げ、小集団活動の中で得られるコミュニケーションスキルを高めさせていく。 指示理解、周囲の状況の把握、基本的な体の使い方、姿勢の保持といった課題への取り組みとして、個々の児童の発達段階に合わせてフレキサーシング、TRX、巧技台、スクーターボード、ボールプール等といった器具を使った感覚統合運動や体づくり運動を充実させることができた。その成果として、体の使い方や指示理解に良い変容が見られる児童が増えた。引き続きコミュニケーションや集団参加の基礎固めを進めていく。 児童一人一人への個別指導の内容を精査し、各個の指導目標に向けた着実な成長を促すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教材教具を活用し、感覚統合を意識した運動を継続的に行ってきたことで、姿勢保持や学校生活全般における運動能力の向上が見られた。 個別でのスキルアップ、ペアでの活動、児童同士複数名での目的活動と、段階的にソーシャルスキルトレーニングを行ってきたことにより、集団の中でスキルを生かそうとする変容が見られるようになった。 話の聞き方、メモの仕方、図絵や表の見方、身近な事物の説明の仕方など、個々に応じて育てる力を明確化した個別指導を行ってきた。具体的な能力アップを図ったことで、児童はそれぞれに成長の自覚をもち確かな自信につなげることができた。